

東金市求名 並木家文書調査報告  
— 代表的史料の紹介と文書目録 —

東金市教育委員会

## 目次

	はじめに		
	口絵		東金市教育委員会 教育長 飯田 秀一
	凡例		
	一、並木家文書について		千葉県文書館古文書調査員 加藤 時男
	(1) 調査の経緯		
	(2) 文書の概要と意義		
	二、代表的史料の紹介		
	細目次		
(1)	明治維新时期史料		6 頁
(a)	維新と松尾藩、木更津県、千葉県 の成立	史料	1 頁
(b)	維新と旗本	史料	38 頁
(2)	教育関連史料		46 頁
(a)	関素寿の私塾経営	史料	47 頁
(b)	近代的教育制度の出発 ― 姫島小学校と求名小学校 ―	史料	52 頁
(3)	その他特徴的史料		56 頁
(a)	近世の東金地域史料	史料	57 頁
(b)	旅日記	史料	61 頁
(c)	近代相撲の功労者高砂浦五郎	史料	62 頁
(d)	遊歴の絵師森山信谷	史料	63 頁
三、	文書目録		111 頁
あとがき			
	東金市文化財審議会 会長 近藤 正		

## はじめに

東金市教育委員会 教育長 飯田 秀一

ここに、『東金市求名 並木家文書調査報告 ― 代表的史料の紹介と文書目録―』が、刊行されることになりました。本書には、東金市の近世から近代にかけての『東金市史』編纂時にも未調査の分野である歴史的価値の高い文書が新たに発見され、そして、それらの一部が掲載されております。まさに、これから歴史関係者により詳細に解明されていくような貴重な資料群とも言えるものであります。

まずは、平成二十四年に膨大な歴史文書を保管してあった並木家から、納屋一杯分にも及ぶ資料を東金市にご提供していただきましたことに、衷心より御礼と感謝を申し上げます。

さて、本書では、今回発見されました膨大な資料の中から、代表的な資料の一部を紹介するとともに、他の資料につきましては文書目録という形で掲載してありますが、いずれも東金市ばかりでなく周辺地域も含めた地域史研究の窓口となるものばかりであるように思います。

一例を申し上げますと、東金市の偉人である「関寛齋」の義父に当たられる「今関俊輔（関素寿）」の私塾である（製錦堂）の教育内容については、これまで資料がなくほとんどわからなかったものが「製錦堂百箇条」（一八三九年）や「製錦堂塾則」（一八四四年）が発見され、その概要が明らかにされつつある現状です。しかも、その塾生の中に関寛齋の幼名「吉井豊太郎」が班長的存在として記載されています。さらに、女子は数少ない中で、「あい」の名前もみられます。（私見で恐縮ですが、後の関寛齋の奥方になられた方ではないでしょうか。）

終りに、刊行にあたり、これら大量の資料群の保管方法を含め、調査分析に当たられました千葉県文書館古文書調査員の加藤時男氏の献身的なご尽力に心より感謝申し上げますと共に、関係機関、団体等の皆様方のご協力にも厚くお礼申し上げます。

平成二十七年三月

(1) 並木家外観

門周辺



母屋



(2) 並木家納屋 (解体前)



(3) 文書の現状

a) 小野山田文化財倉庫 (全体)

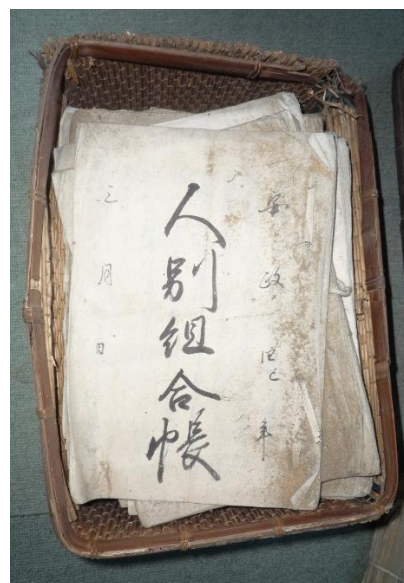
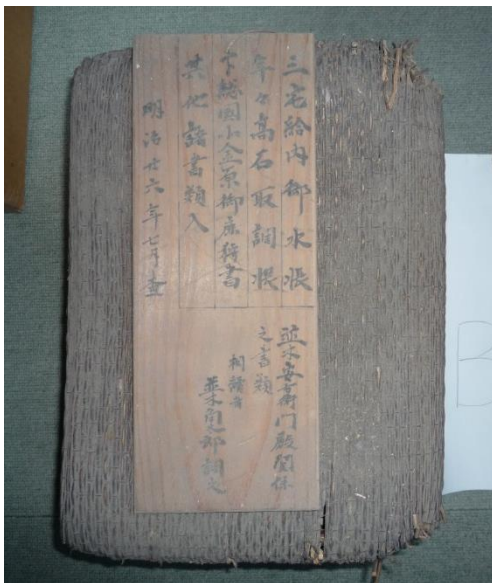


b) 調査時

文書A



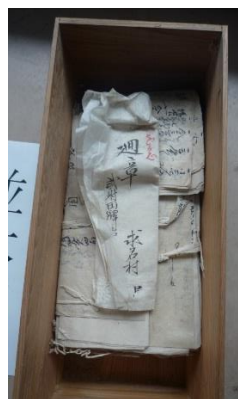
文書B



文書C



文書D



文書E



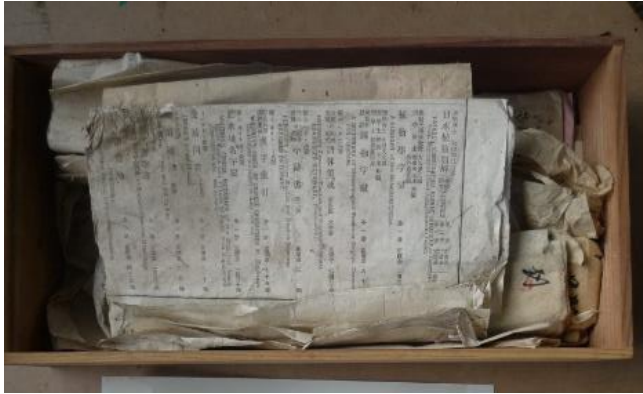
文書G



文書H



文書 I



文書 J



文書 K



文書 L

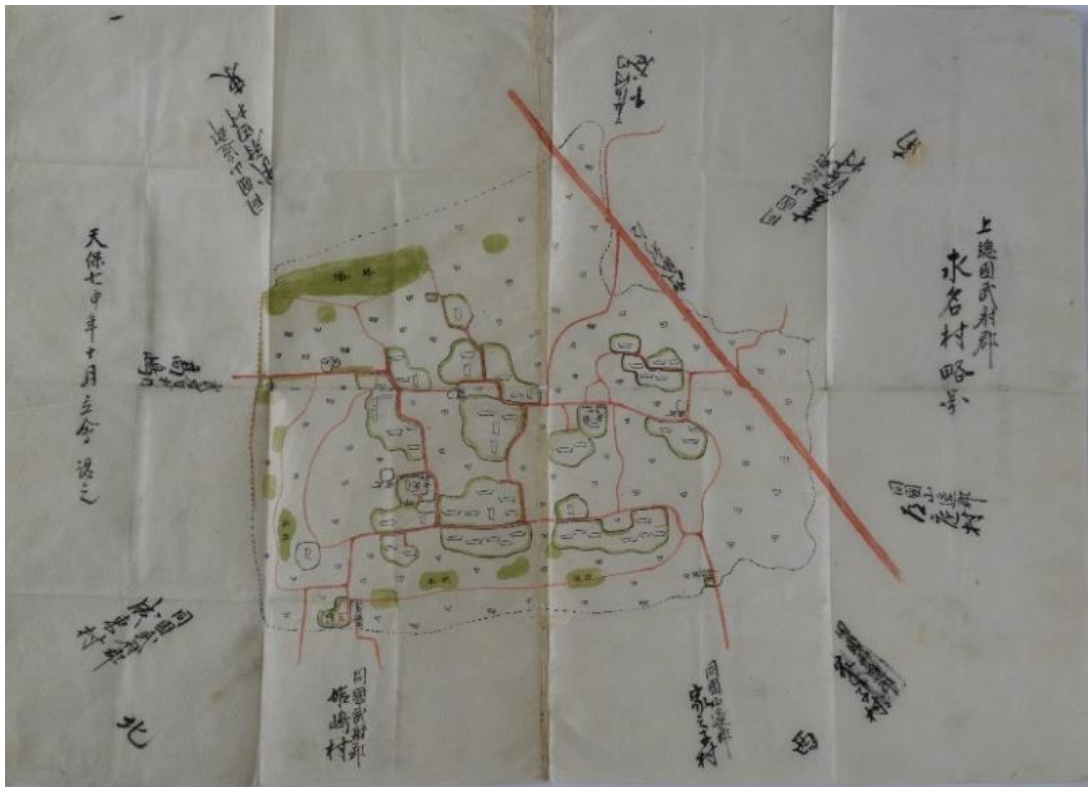


書籍類 あ〜い

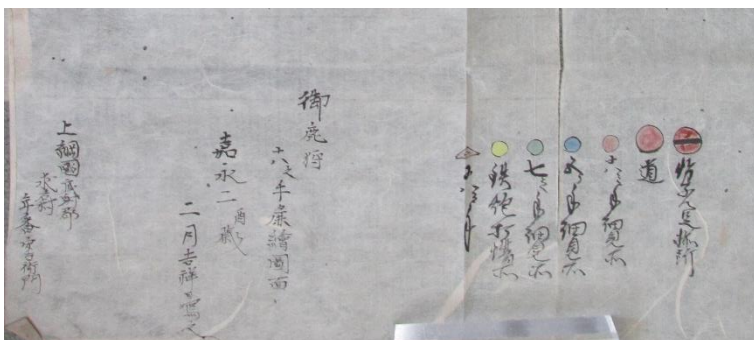


(4) 主な史料の写真

【求名村絵図 E9-1】



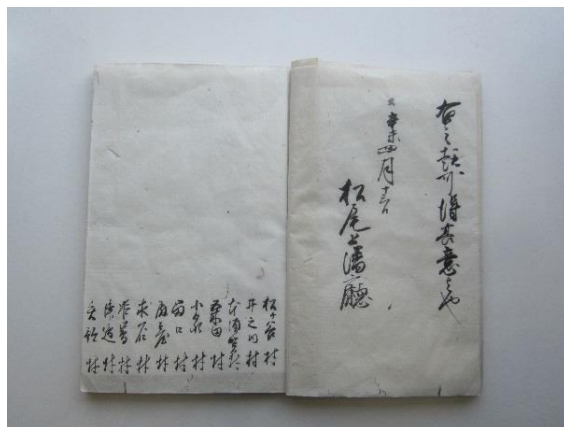
【嘉永二年 小金野御鹿狩六之手 絵図面 B2-9 (部分)】





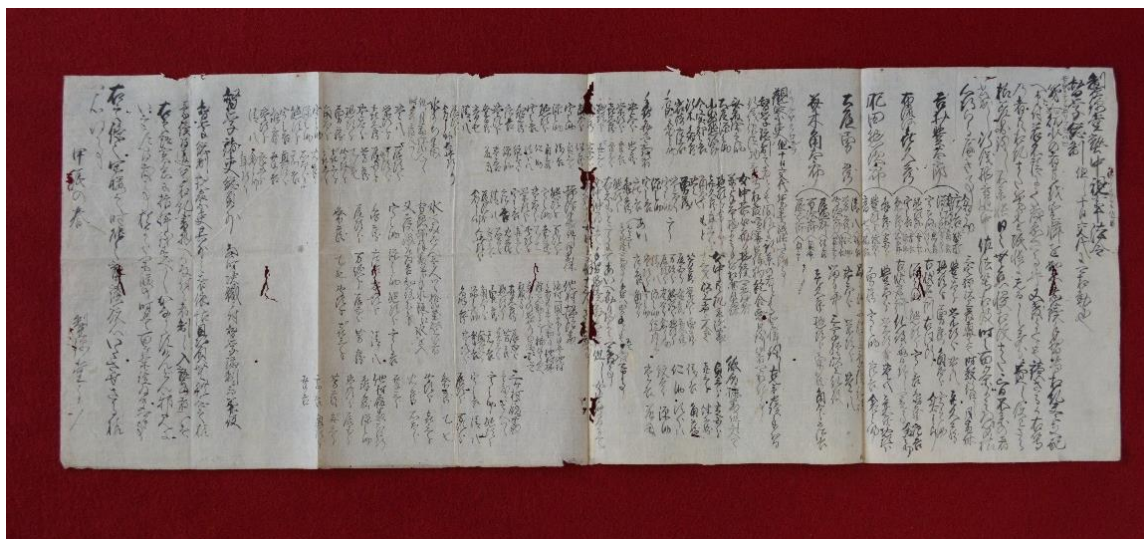
・明治維新时期史料

【御用留 史料 24, 26 R5,6,7】

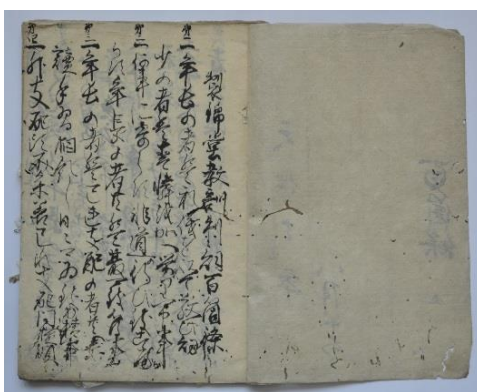
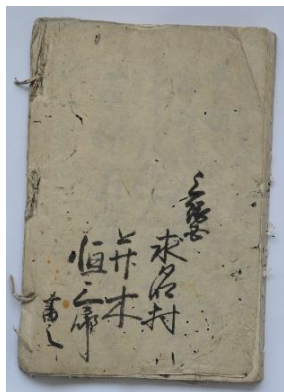


・教育関係史料

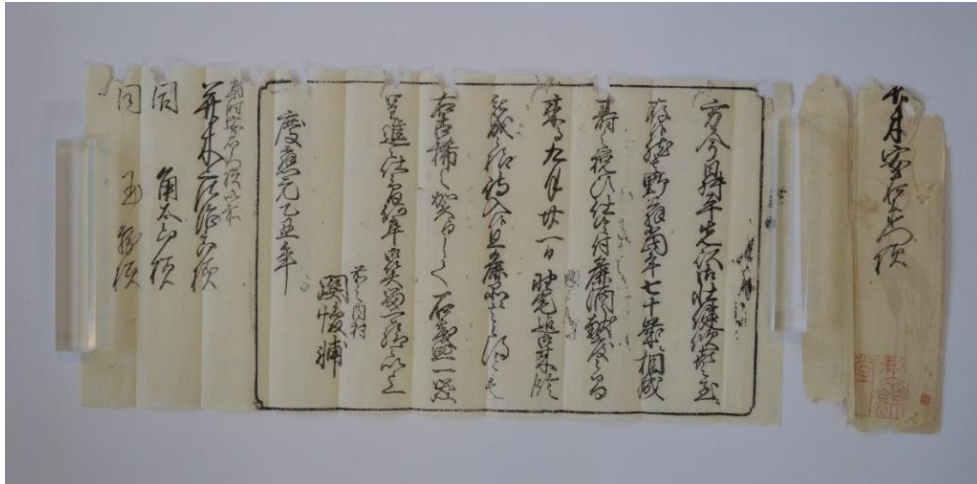
【製錦堂塾則 史料 47 S1】



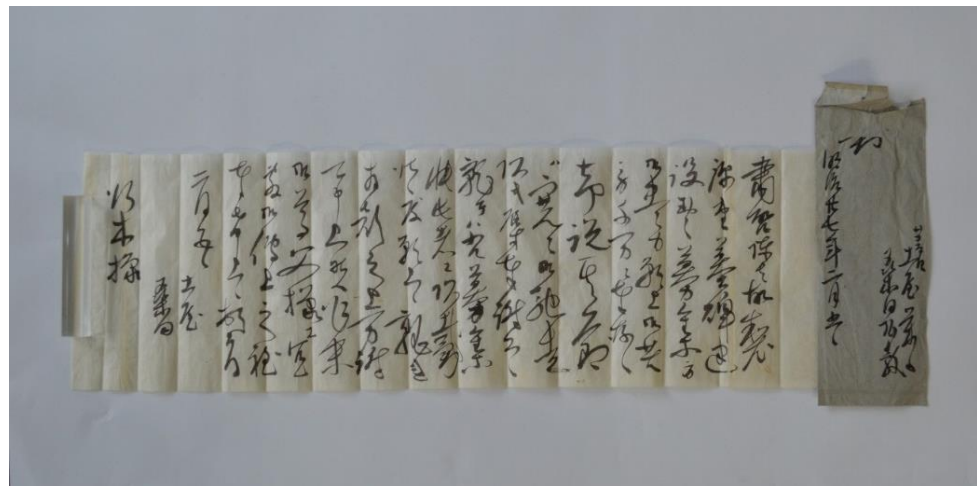
【製錦堂百箇条 史料 48 Q28-1】



【関素寿書簡（古希祝い） 史料 49 A7-2-3】



【土屋栄司・桑田弘毅書簡 史料 50 I4-1】

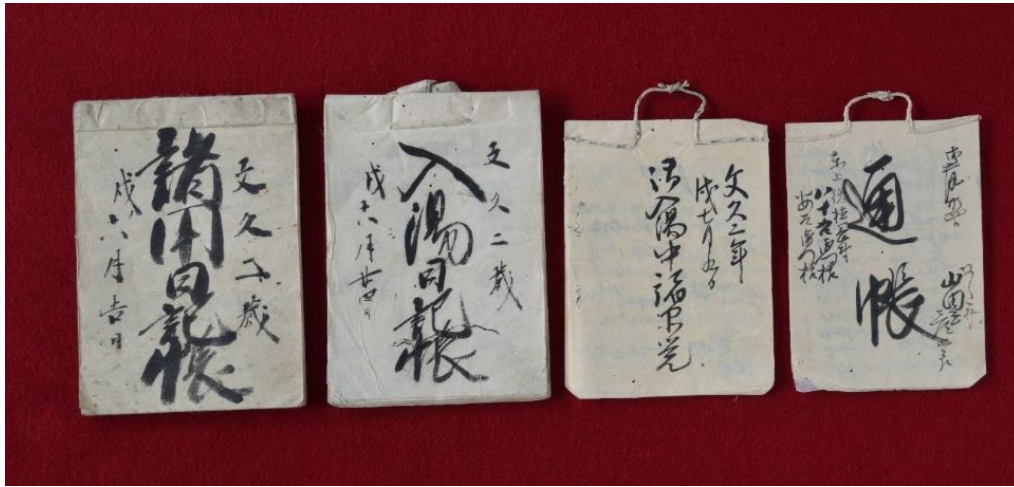


【関素寿之碑 史料 51 常覚寺（前之内）】

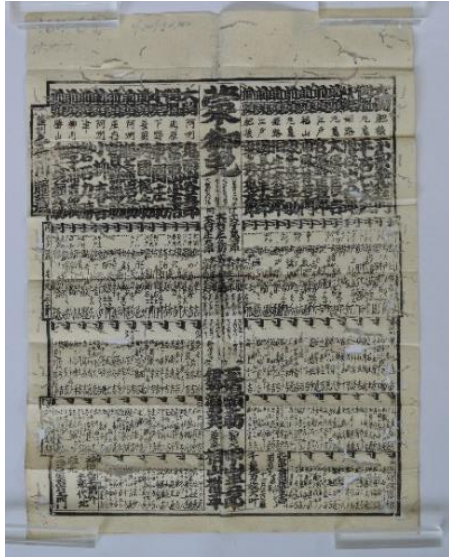


・その他特徴的史料

【諸用日記帳 史料 61 M18-1~2】



【相撲番附 Q2-6】



裏書「求名村 安右衛門様 高見山大五郎」

【森山信谷の絵】



## 凡例

- 一 本書は、「東金市求名 並木家文書調査報告」であり、史料紹介と目録編の二部編成とした。
- 一 目録は並木家に所在したときの現状に依じて、A～W・あ～けの単位を付し、単位ごとに上から番号を付して目録番号とした。時間的制約等により書簡、覚、領収証類など一括としたものも多い。
- 一 目録の形式は文書番号、表題、年代、差出人、受取人、形態、数量について記載した。
- 一 文書の形態については、状（一枚文書）、竪冊、横冊、横半冊に分類し、表示した。
- 一 書籍類については、単位（現状）毎に「あ」「け」に分類をして目録を作成した。
- 一 史料紹介は目次に示したような項目ごとに特徴的文書を紹介した。
- 一 史料には通し番号を付し、末尾に目録番号を表示した。
- 一 翻刻にあたっては、原文に忠実であることを基本としたが、旧字体は常用漢字に改め、変体仮名は平仮名とした。
- 一 助詞の者（は）、茂（も）、江（え）、而已（のみ）などはそのままとした。頻出する合字方（より）などは作字した。
- 一 明らかな誤字、衍字、脱字は修正または正しいと思われる字を（ ）内に傍記したが、不明の場合は（ママ）を傍記した。平出は二分分、欠字は一字分の空白とした。
- 一 虫損部分のうち、確実に推定できる部分は翻刻し、解読不能の部分は□、「」などとした。
- 一 史料中には、一部に身分的差別に基づく名称も見られるが、身分的差別を歴史的に研究し、その根絶を期する一助とするため、そのままとした。
- 一 本書の作成にあたっては、山武市歴史民俗資料館をはじめ、千葉県文書館、茂原市美術館・郷土資料館、いすみ市郷土資料館、城西国際大学水田美術館、東金市文化財審議会などの協力を得た。
- 一 書籍の整理に当たり、千葉大学小関悠一郎准教授の指導と協力を得た。
- 一 全体の編集、解説などは加藤時男・青木幸一・稗田利恵子・鐘田千尋の四名が担当した。